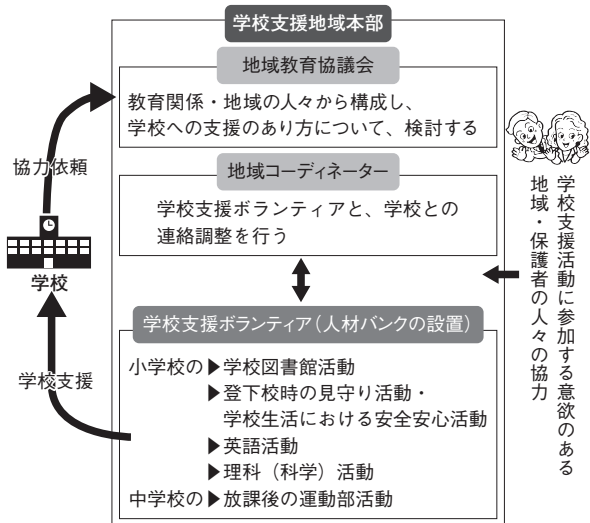


図1 地域ぐるみでの学校支援概要



※人材バンクは、「人は財産である」という意味の造語

事業構成は本部運営協議会が事業統括を執り、市内中学校を中学校ブロック（山梨南中学校ブロック、山梨北中学校ブロック、笛川中学校ブロック）の3地域に分け、それぞれの支援本部において事業を展開しています。

各支援本部の人員構成は、地域教育協議会、地域コーディネーター、学校支援ボランティア、学校支援ボランティア（人材バンクの設置）

各支援部門の活動内容

- ① 学校図書館活動部門支援内容
- ・ 図書の貸出・返却の補助
 - ・ 授業間休みやお昼休みなどは図書委員

支援部門は、学校図書館活動支援部門・英語活動支援部門・理科活動支援部門・学校安全活動支援部門・学校学芸活動支援部門の5部門で構成しています。それぞれの部門の活動内容を簡単に紹介します。

また、図書室でその季節に合った飾りなどを作成し壁面や窓辺の飾りなどそれぞれの図書室に合った飾りの作成も行っております。

- ・ 読み聞かせ
- ・ おもに低学年にむけて紙芝居、絵本などを読んでいます。
- ・ 本の廃棄

目録カードを抜き出しする作業を補助

山梨市は、日本列島のほぼ真ん中にある山梨県の北東部、埼玉県と長野県の県境に位置します。平成17年3月に山梨市、牧丘町、三富村が合併し、新しい「山梨市」としてスタートしました。

山梨市には、国立公園に指定された豊かな自然、果樹を中心とした農業、歴

はじめに

学

校

を

支

え

る

地

域

の

力

chikara

文部科学省
生涯学習政策局社会教育課

つながる交流と連携を目指して

山梨県山梨市教育委員会

史に彩られた数多くの文化遺産など、たくさん魅力があります。こうした地域固有の魅力を生かし、ゆとりや豊かさを実感できる安全・安心な住みよいまちづくりを進めており、ここに住む人たちが、いきいきと暮らすことのできるまちづくりを推進するための「新しいまちづくり」を目標としています。

そのまちづくりの一環として、文部科学省の委託事業である学校支援地域本部事業（図1参照）を平成20年度から取り組んでいます。委託事業は3年間であり平成21年度に2年目を迎えました。

ランテアで組織されています。地域教育協議会は、教育関係者・地域の方々などで構成され、それぞれの地域の実情に応じ、学校支援の在り方等について検討をしています。地域コーディネーターの他にも活動は、地域の方々、ボランティアの方々と学校との連絡調整などであり、この事業の要となつて活躍をしています。

員の当番が貸出・返却してくれませんが、高学年になるとほかの用事で当番に來られないこともあります。そのような時にボランティアが図書の貸出・返却の手助けをしています。

- ・ 図書室の環境整備（本の整理整頓、清掃、補修、掲示物の作成など）

読み終わった本は子どもたちが元の場所にもどすことになっていますが、どこにもどしたらいいのかわからなくもどせないこともあります。ボランティアは分類ごとに本をもどし整理する作業を行っています。また、古く傷んでいる図書が多く、ラベルの張り替えやページの破れ表紙の修理なども行っています。

助しています。

② 学校安全活動支援部門支援内容

児童の安全のための意識の高揚を図り、児童の登下校時の見守り声かけ活動をボランティアの家の前や畑の作業中、散歩の途中などボランティアの負担にならない程度で行っています。そのほかに学校が指定または希望する場所での登下校時のパトロールを定期的に行ったり、通学路等の危険箇所を市教育委員会、学校、警察等に通報してもらうこともあります。

③ 中学校運動部活動部門支援内容

ソフトテニス・サッカー・柔道・ソフトボール・ラグビー・卓球・バスケットボールなどの7種目でボランティアが指導しました。その結果、部活動に対する生徒の意識や個々の技術が向上したため、チーム力がアップしたこと、生徒の規範意識が向上してきたこと

とがありました。

④ 理科活動部門支援内容

ゲストティーチャーとして学校の授業のなかで、担当教諭とともに授業の補助員として体験学習、グループ学習、通常授業、校外学習において、担当教諭のアシスタントとして活動しています。また、それにかかる教材の提供も行います。

活動例としては「もののかさと力」という4年生の単元で「空気をつぼうで玉をできるだけ遠くへ飛ばそう」という実験があります。この実験は空気の中をつぼうの押し棒を押していくと、筒の中の空気のかさはどうなるのか、何が玉を押しだしているのかを調べ、空気は押されることでかさが小さくなり、空気の押す力は大きくなることを実践しながら楽しく学習するというものです。

⑤ 英語活動支援内容

ボランティアは、学級担任・ALT（外国語指導助手）・JTE（日本人英語指導助手）とともに授業に参加し、デモンストレーションの補助やゲームなどのアクティビティーに参加します。グループ活動をする時などボ

ランティアがいることで、それぞれのグループに指導者の目が行き届くようになりました。また、ボランティアの声掛けで一人一人が理解できているか確認しながら進めることができ、理解しにくい単元もスムーズに終わりました。

少人数のクラスでは、ボランティアが授業の中で行われるゲームに参加することによって、児童がより多くの人とコミュニケーションをとることができました。このため、児童はボランティアと一緒に活動することをとても楽しみにしてくれています。

人数の多いクラスでは、ボランティアの参加によってゲームの待ち時間を短くすることができ、英語の発話数を増やすことができました。また、各学校で使用する大量の英語のカードを作成する作業の手伝いなども行っています。

アクティビティーによつては、クラスを2つに分けて児童の半分を隣の空き教室に移し、より効率よくアクティビティーを実施することもできました。ボランティアのサポートとアイデアで、アクティビティーの幅が広がれるのも利点です。

今後も各学校の先生方やALT・JTEと協力して、より充実した英語活動をスムーズに行えるようにしていきます。



部活動の指導



理科の授業補助

たいと思います。

これからの課題

この事業もいよいよ最終年度の3年目になります。課題としては各学校の支援希望内容にそえるようなボランティアの配置・募集ができるか、また支援活動の要請のないボランティアへの対応をいかにするかなど、コーディネーターの課題やボランティア一人一人の課題あるいはボランティアを受け入れる学校側の課題があります。

問題点を精査し、それを情報にして配信し、さらに地域と学校が協力して取り組むにはどのような支援がどの程度必要なのかを考え、学校が求めるさまざまな声を集め、その声をつなぎ、支援に生かしていきたいと思っています。また、自らが住む地域・学校に対して貢献する意識を高めながら、そのうえで自分の経験を生かした支援へとつなげていけるよう、ボランティアの輪をつくることの手助けになればよいと考えます。（学校教育課副主査 芦沢義仁）



読み聞かせ



登下校のパトロール